

令和7年度 第3回 福知山市環境審議会 議事録（詳細版）

日時：令和7年9月25日（木）10時30分～11時55分

場所：福知山市企業交流プラザ 展示ホール

（委員）※敬称略

大脇 成義	京都府中丹西保健所 技術次長
入海 健一	一般社団法人 福知山医師会
的場 信敬	龍谷大学 教授
衣川 浩行	福知山市商工会 事務局長
横田 将吾	一般社団法人 福知山青年会議所 理事長
松原 斎樹	京都府立大学 特任教授
平田 浩之	福知山バイオマス事業協同組合 理事
増茂 友美	市民公募委員
梅原 規司	市民公募委員
木村 零	市民公募委員

（事務局）

前川 二郎	副市長
西畑 信寿	産業部長
山田 信義	産業部次長兼エネルギー・環境戦略課長
足立 訓章	産業部エネルギー・環境戦略課 企画係長
飯田 将太	産業部エネルギー・環境戦略課 企画係 主査
元島 弘貴	産業部エネルギー・環境戦略課 企画係 主事

◇ 次 第 ◇

- 1 開会挨拶
- 2 委嘱状の交付
- 3 会長の選出
- 4 審議事項
 - ・地域脱炭素化促進事業における促進区域の設定について
- 5 閉会挨拶

○開 会

挨拶 福知山市 副市長 前川 二郎

○委嘱状の交付

会場出席の委員へ委嘱状を交付

○会長の選出

委員の互選により、松原委員を会長に選出

職務代理者は中尾委員を指名、当日欠席のため、次回開催時に紹介

○議 事

審議事項

地域脱炭素化促進事業における促進区域の設定について

Ⅰ エネルギー・環境戦略課より資料Ⅰにて説明

2 委員からの意見、質問

・促進区域設定のエリア案について、脱炭素まちづくりのコンセプトにもとづいた各ライフステージの主要な拠点というストーリーが重要なのか、実際にこの4か所が設定できれば、ストーリーは関係なくそれで OK なのか、市としての考えはどのようにお考えか。

→各ライフステージにおける主要な拠点を脱炭素によってアップグレードさせていくことを検討しているため、4か所を設定できれば OK ではなく、このストーリーが重要と考えている。

・ストーリーが重要ということで、福知山公立大学が選定されているのは、学生のライフステージという意味合いか？

→福知山公立大学は学生の学ぶ場という設定である。脱炭素まちづくりのコンセプトに記載しているように各ライフステージを挙げており、住むというところでつつじが丘エリア、小中学校と大学の学ぶというところで福知山公立大学、体を作る・挑戦するというところで三段池公園、働くというところで長田野工業団地と各ライフステージのフェーズごとに拠点となる施設を選定している。

・コンセプトと4つのエリアを結び付けて設定するということを口頭説明してもらって理解できたが、この内容が資料に落とし込めていないので、つながりが見えにくくなっている。4つのエリアを選定することについては、反対意見ないが、資料は修正が必要である。

・促進区域を設定する中で、太陽光だけを推進するようになってしまっている。脱炭素は太陽光パ

ネル以外にもバイオマス利活用などの取組がある。おそらく市として、太陽光だけというふうには考えていないと思うが、資料には太陽光以外の話が出てこないのも、そのあたりどのように考えているのかお聞きたい。

→脱炭素まちづくりの手段は太陽光に限らず、バイオマス発電や風力などもあり、省エネという手法もある。促進区域の設定とあわせて各エリアにおいて、最適な手法を選定することを考えている。

・今回は促進区域の設定だが、プラットフォーム、福知山市のカーボンニュートラル、環境基本計画と同時進行で審議会の議題にもなる。同じように見えて全部違うことなので、そのあたりの見せ方や資料の作り方に工夫が必要である。進めていることは間違いないと思うので、市の考えややっていることをしっかり資料に落とし込むというところをお願いしたい。

・脱炭素まちづくりのロードマップの中で、促進区域の次に書かれている脱炭素先行地域づくり制度など国庫補助を活用するとあるが、このあたりの実現可能性について伺いたい。

→環境省に事業費の2/3、上限50億円でモデルづくりを後押しする制度があり、申込を検討している。審査があるので、必ず補助金を取れるものではないが、当市の脱炭素まちづくりのコンセプトに沿ったモデルは、これまでこの制度で選定を受けておらず、一定の評価を受けている。交付金を獲得し、来年度以降の5年間で取組を進めていきたいと考えている。

・環境省の補助金を獲得していくというところで、もし獲得できなかった場合はどのように対応されるのか？また具体的に誰が事業を担っていくのかというところについて、考えを伺いたい。

→誰がするのかという部分については、まずは行政が範を示すことが重要であると考えている。昨年の12月に設立したプラットフォームの参画者を中心に脱炭素まちづくりを進めていきたいと考えている。ただ参画者だけで脱炭素が実現するわけではないので、さらに事業者や市民の皆様に参加いただきながら進めていきたい。

補助金を取れなかった場合どうするのかについては、脱炭素社会に移行するための補助金は脱炭素先行地域以外にもいくつかある。経産省にも出てきているので、万が一先行地域補助金が取れなかった場合は、そのあたりの補助金を検討し、チャレンジしていくことを考えている。

別の視点であるが、脱炭素社会にシフトする中で、事業者や市民の方が前向きに取り組んでいかないといけないという面もある。補助金や財源に頼らない各自での活動も脱炭素まちづくりに貢献するということも働きかけをしていきたい。

・働きかけは非常に重要なポイントである。太陽光パネルの設置ですが、単純に儲かるからつけるという方が多いが、次世代のための行動として出資するという方も増えている。また防災拠点においても太陽光が検討されており、啓発が進めば導入も増えていくと考えられる。

・そもそもの目的は決まっているがなにをするか決まっていけないけど、先にエリアを決めておくということなのか。本来は何をするのか手法を明確にしたうえで広げていくものではないか。何をするか決まっていけない、でもエリアは決めておくという考えであれば、順番が違うとを感じる。

→このエリアにおいて CO2 排出の削減をしていくということは決まっている。その手段として再生可能エネルギーを導入するということまでは決まっているが、再生可能エネルギーの種類については、これから地域にあったものを選定していく。何が最適かは一定把握しており、これまでの審議会でポテンシャルについて報告をして、整理が完了している。

・再エネに様々な種類はあるが、大部分は太陽光である。太陽光、バイオマスが主になってくると考えられる。熱利用という手法もあり、太陽熱や地中熱など一般の方にはわかりにくいけど、検討は必要であると感じる。

・環境省の交付金について、全国的に見て福知山市のようなイメージで申請をされている他の地域はないのか。

→6回の募集で 80 数自治体を選定を受けて事業を開始しているが、ライフステージのアップデートという福知山市のようなアプローチの自治体はまだない。

・すでに選定されている 80 のモデルの中で、良い取組をされているところは？

→尼崎市の阪神タイガースの球場を脱炭素化して、ゼロカーボンで運営していて、太陽光パネルの屋根を熱中症対策としても活用するという都市型のモデルもあれば、岡山県西栗倉村で地域木材を活かし、森林、木材活用を通して CO2 を吸収するというモデルもある。共通するのが、地域の特性に合わせて、オリジナルのモデルを作ることが、脱炭素だけでなく、地域のブランディングにつながっているという点であり、福知山市も福知山市ならではのモデルを作っていきたい。

・今回の福知山市のモデルはこれまで選定されているところと何が違うのか。

→選定を受けたがうまくいっていない自治体も珍しくない。5年間の事業計画を盛り込んで申請するが、いざ事業を進めるとなった際に地域との合意形成が取れておらず、事業が実施できないという事態になっている。そうならないためにプラットフォームでパートナーシップを作り、金融機関も参画している。プラットフォームでの検討された具体的な事業を盛り込んで提案することを検討している。

・先行地域については地元で情報共有がされているのか

→審議会等で方針を共有させていただき、プラットフォーム設立の際に、報道機関にプレスしていただいている。

・本日の議論としては、現在の事務局案で促進区域を考えていくということについてはおおむね問題ない。基本的な方向性について、特に強い異論はない。今後、パブリック・コメント結果報告等次回に向けて、準備を進めてほしい。